

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38400
事業名	救急安心都市さっぽろ推進費					
評価担当課	所属名	消)警防部 救急課				
	課長名	庄司 隆広	担当者名	伏見 明洋	電話番号	011-215-2070
施策名	主	災害に備えた地域防災体制づくり				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	● 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	救急要請の集中により出動可能救急隊数がゼロとならないよう救急出動体制を強化する。			
		長期	増加する救急要請への対応と効果的な救命処置を実施するため、救急隊の増強など出動体制の強化や救急資器材の充実を図る。			
	取組内容	市民からの救急要請に確実に対応するため、現場到着時間の延伸や平時に救急要請の集中により出動可能救急隊数がゼロとならないよう救急出動体制を強化するとともに、高度な救急資器材を整備するなどにより、増大する救急要請に適時適切に対応する。 ①増加する救急要請対応として救急出動体制の強化(救急隊の増強など) ②高度救急資器材の整備				
	実施結果	これまでの救急隊の増強配置の効果を踏まえ、増強する救急隊の配置場所などを検討するとともに、高度な救急資器材として、自動心臓マッサージ器を市内13隊を追加配置し、26隊で運用を開始した。				
事業実施における工夫点	必要に応じて、適宜見直しを行っている。					
対象者	市民	開始	令和3年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	消防組織法、消防法、救急救命士法、消防力の整備指針、救急業務実施基準					
他都市の状況	他都市においても救急隊の増強や高度救急資器材の整備など同様の取組みを行っている。					

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費	33,593	34,000	33,566	76,000
うち特定財源	0	0	0	26,000
人工	1.0	1.0	1.0	1.0
人件費	7,200	7,200	7,200	7,200
計(事業費+人件費)	40,793	41,200	40,766	83,200
事業費の内訳	令和3年度決算	自動心臓マッサージ器購入(本体)30,787,900、(付属品)2,778,490		
	令和4年度予算	自動心臓マッサージ器購入(本体)33,169,000、(付属品)2,992,000、救急車整備31,000,000、デジタル無線データ変更等5,533,000、備品購入費等3,654,000、端数調整▲348,000		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	無し			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	救急要請の集中により出動可能救急隊数がゼロとなった日数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	0	0	6	0	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	救急要請が輻輳し、令和4年1月～2月において、「出動可能救急隊数ゼロ」が複数日発生した。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	B	令和3年中における札幌市の救急隊1隊あたりのカバー人口は58,000人で、政令都市で最も多い。令和3年度中、「出動可能救急隊数ゼロ」が発生し、通報に対して、指令を待機する状況も生じた。今後検討する必要がある。			
事業の実手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	B	救急要請が輻輳し、令和4年1月～2月において、「出動可能救急隊数ゼロ」が複数日発生し、通報に対して、指令を待機する状況も生じたことから、救急出動体制の強化についてさらに検討する必要がある。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	B	出動可能救急隊数がゼロ隊となり、指令を待機した事案があったため。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	今後も救急出動件数の増加に伴う現場到着時間の延伸や、救急要請の集中による「出動可能救急隊数ゼロ」を防ぐため、救急出動体制を強化する。				
前回の評価	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし		見直し効果額 (前年度)	0 千円	
今回の評価	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	救急要請が輻輳し、令和4年1月～2月において、「出動可能救急隊数ゼロ」が複数日発生したため。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input checked="" type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 休止・廃止 救急活動時間の短縮等を目指し、救急DX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進し、救急隊(行政)と医療機関との間で適時必要な情報の共有を可能とするアプリを導入、必要な資器材を整備する。			
	予算	<input type="radio"/> 拡充 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮小 <input type="radio"/> その他		見直し効果額	0 千円
	システム関連消耗品(3,806千円)、タブレットスマートフォン契約料・通信費(4,902千円)、救急隊アプリシステム関連費(24,046千円)、その他(19,383千円)				